

出張報告書

令和 元年 8月 22日

会派名 民主市民ネット

会長 山田庫司郎 様

出張者氏名 山田庫司郎



下記のとおり出張したので報告します。

記

出張期間	令和 元年 8月 18日(日) ～ 令和 元年 8月 19日(月) [2 日間]						
出張概要	①	月日	8月18日	市町村名	札幌市	会場	ホテルポールスター札幌
		目的	研修				
		テーマ	「財政破綻」とは実際どういうことなのか。 講師：厚谷 司 夕張市長				
	②	月日	8月18日	市町村名	札幌市	会場	ホテルポールスター札幌
		目的	研修				
		テーマ	「多様性の尊重とLGBT～性的マイノリティと人権～」 講師：洲上 綾子 北海道議会議員				
	③	月日	8月18日	市町村名	札幌市	会場	ホテルポールスター札幌
		目的	研修				
		テーマ	「今後の日本経済とアベノミクス」 講師：明石 順平 弁護士				
	④	月日	8月19日	市町村名	札幌市	会場	ホテルポールスター札幌
		目的	研修				
		テーマ	「日本国憲法と改憲問題」 講師：岩本 一郎 北星学園大学				
所見	別紙のとおり						
備考							

※所見については、別紙(任意様式)で作成して下さい。

出張報告書

令和 元年 8月 22日

会派名 民主市民ネット

会長 山田庫司郎 様

出張者氏名 平賀 貴幸



下記のとおり出張したので報告します。

記

出張期間	令和 元年 8月 18日(日) ~ 令和 元年 8月 19日(月) [2 日間]						
出張概要	①	月日	8月18日	市町村名	札幌市	会場	ホテルポールスター札幌
		目的	研修				
		テーマ	「財政破綻」とは実際どういうことなのか。 講師：厚谷 司 夕張市長				
	②	月日	8月18日	市町村名	札幌市	会場	ホテルポールスター札幌
		目的	研修				
		テーマ	「多様性の尊重とLGBT～性的マイノリティと人権～」 講師： 淵上 綾子 北海道議会議員				
	③	月日	8月18日	市町村名	札幌市	会場	ホテルポールスター札幌
		目的	研修				
		テーマ	「今後の日本経済とアベノミクス」 講師： 明石 順平 弁護士				
	④	月日	8月19日	市町村名	札幌市	会場	ホテルポールスター札幌
		目的	研修				
		テーマ	「日本国憲法と改憲問題」 講師： 岩本 一郎 北星学園大学				
所見	別紙のとおり						
備考							

※所見については、別紙(任意様式)で作成して下さい。

出張報告書

令和 元年 8月 20日

会派名 民主市民ネット

会長 山田庫司郎 様

出張者氏名 金兵 智則



下記のとおり出張したので報告します。

記

出張期間	令和 元年 8月 18日(日) ～ 令和 元年 8月 18日(日) [1 日間]						
出張概要	①	月日	8月18日	市町村名	札幌市	会場	ホテルポールスター札幌
		目的	研修				
		テーマ	「財政破綻」とは実際どういうことなのか。 講師： 厚谷 司 夕張市長				
	②	月日	8月18日	市町村名	札幌市	会場	ホテルポールスター札幌
		目的	研修				
		テーマ	「多様性の尊重とLGBT～性的マイノリティと人権～」 講師： 淵上 綾子 北海道議会議員				
	③	月日	8月18日	市町村名	札幌市	会場	ホテルポールスター札幌
		目的	研修				
		テーマ	「今後の日本経済とアベノミクス」 講師： 明石 順平 弁護士				
	④	月日		市町村名		会場	
		目的					
		テーマ					
所見	別紙のとおり						
備考							

※所見については、別紙(任意様式)で作成して下さい。

出張報告書

令和4年 8月 20日

会派名 民主市民ネット

会長 山田 庫司郎 様

出張者氏名 川原田 英世

下記のとおり出張したので報告します。

記

出張期間	令和6年 8月 17日(土) ～ 令和6年 8月 19日(月) [3日間]						
出張概要	①	月日	8月18日	市町村名	札幌市	会場	ポールスター札幌
		目的	民主議員ネット政策研修会 ①				
		テーマ	「財政破綻」とは実際どういうことなのか。 講師： 厚谷 司 夕張市長				
	②	月日	8月18日	市町村名	札幌市	会場	ポールスター札幌
		目的	民主議員ネット政策研修会 ②				
		テーマ	「多様性の尊重とLGBT～性的マイノリティと人権～」 講師： 淵上 綾子 北海道議会議員				
	③	月日	8月18日	市町村名	札幌市	会場	ポールスター札幌
		目的	民主議員ネット政策研修 ③				
		テーマ	「今後の日本経済とアベノミクス」 講師： 明石 順平 弁護士				
	④	月日	8月19日	市町村名	札幌市	会場	ポールスター札幌
		目的	北海道から平和を創る自治体議員の会 総会・研修会				
		テーマ	「日本国憲法と改憲問題」 講師： 岩本 一郎 北星学園大学				
所見	別紙のとおり						
備考							

※所見については、別紙(任意様式)で作成して下さい。

出張所見

民主議員ネット政策研修会 ①

「財政破綻」とは実際どういうことなのか。

講師：厚谷 司 夕張市長

民主議員ネット北海道の2019年度政策研修会は、3つの講演が行われ、うち2つの講演は統一地方選挙で当選したばかりの夕張市長と北海道議会議員からの講演となりました。夕張市長の厚谷司氏は、2期の夕張市議会議員の経験ののちに市長に当選され、生まれ育った夕張の繁栄と衰退、そして財政破綻を経験し、地方消滅が叫ばれる現代においてどの地域も破綻や消滅の危険性があることを訴えています

日本で初の財政破綻をした自治体である夕張は、独自に予算の組み立てをすることはできず、すべての支出は北海道と総務省の管理のもとにあります。鉛筆一本を買うのでも、北海道と総務省の許可をもらう必要があり、そこには新たなコストと時間を要することから、市民のニーズに答えるスピード感のある行政を行うことは極めて困難な状況にあります。こういった中で、前任の市長から財政健全化へ向けて歩んできた道は、多くの市民に大きな負担を強いるものであったとのことでした。

広域に集落が点在していることから、除雪の費用だけで税収を超えてしまうほどの状況、高齢化によって介護を必要とされる方がいても、独自に介護・福祉に充てる予算は当然なく、自治体から札幌などへの移住をお願いする状況、地域自治の充実のために挑戦するには程遠い現実のなか、国と道の支えのもとに現状打開の道を探っているところのことです。

しかし、こういった困難な状況にあって、多くの民間の手助けが全国から寄せられており、大きな支えになっていることもあります。例えば、会社の本社を夕張に移動して税を納める動き、若者たちが移住してきてまちづくり団体を設立し活力を取り戻そうとする動き、ふるさと納税などによる財政支援の動きなど、夕張を支援する輪は広がっており、自治体としても、また地域に住まう方々にとっても大変大きな支えになっているとのことでした。こういった動きは、大都市圏に人口が集中し、どの地域でも人口の社会減が進む。少子高齢化によって自然減も進み、子どもの姿が町から消えていく。こういった日本全国にある課題が表面化したのが夕張であるといった、他人ごとではないという課題意識の表れでもあるとのことでした。

まさに他人事ではない課題を学ぶことができ、網走としても更なる財政健全化と地域の再興へ向けて取り組みを進めていかななくてはならないことを再確認させていただきました。

出張所見

民主議員ネット政策研修会 ②

「多様性の尊重と LGBT～性的マイノリティと人権～」

講師： 渕上 綾子 北海道議会議員

渕上綾子氏は、2019年の統一地方選挙で札幌市東区から北海道議会議員に当選されました。渕上氏は、幼いころから自身の体と心が一致しないと感じ、トランスジェンダーであることを自覚するようになりました。大学を卒業後、2000年に農林水産省北海道農業試験場に勤務されていましたが、自らに素直に生きたいという思いから2001年に札幌のすすきのにあるニューハーフショークラブ「ららっ」に入社し、ステージに立っていました。2015年、国連サミットにてSDGsの「持続可能な開発のための2030アジェンダ」が採択され、そこからジェンダー平等、多様性を認め合う社会に向けた取り組みが世界的に動き出しました。LGBTsの人権に対しての国際的な関心が高まる中、日本はまだまだ取り組みが遅れており、苦しんでいる人たちがいることを受けて2019年に政治の世界に歩み出した。

この度の講演では、自身の経験から、どのようにトランスジェンダーであることを自覚していったか、どのように家族や友人に打ち明けた(カミングアウト)をしたのか、他人からの視線に対してどのように感じてきたのか、悩み苦しむ日々をどう乗り越えたのかをお話いただき、そのうえで、問題である現在のLGBTsの認識の低さや法的・制度的に認められていないことなどについて伺いました。誰もが認め合い、支え合い、ともに生きていく当たり前のようなことが、まだこの国ではできていないという大きな課題を認識し、政治の役割を実感しました。

網走市議会には、すでにLGBTsの尊重を求める請願が複数回提出されていましたが、反対意見があり請願を採択できない状況にありました。これについて講師からは、非常に残念だという発言もありました。(2019年3月議会で請願は採択)

まだまだ課題が多くありますが、市民理解の推進と認め合う社会の確立へむけて取り組む重要性を強く感じました。

出張所見

民主議員ネット政策研修会 ③

「今後の日本経済とアベノミクス」

講師：明石 順平 弁護士

明石順平氏は、弁護士として主に労働事件・消費者被害事件を担当し、ブラック企業被害対策弁護士事務局長をつとめられ、また「アベノミクスによろしく」「データが語る日本財政の未来」「人間使い捨て国家」などの経済や労働に視点をのいた著書を出版。また、国会でも参考人として経済状況についてデータを用いて説明するなど幅広く活動されています。

この度は、アベノミクスが実施から5年以上が経過し、一定の結果が見えてきたことから、その状況をデータを用いて説明いただくとともに、これによって今後の日本経済がどのようなようになっていくのか明石氏の考えを聞かせていただきました。

まず、アベノミクスの成果についてですが、賃金のデータなどで改ざんがあり、実態と乖離があることが表面化しているが、どのデータでも実質賃金は上がっていないこと。GDPも上がったように見えるが、計算方式が変わった影響によるもので上がっていないこと。株価は上昇し伊弉諾景気やいざなぎ景気と言われているが、日銀の株の買支えや年金の株への投入などの背景があり、実体経済に即してはいないこと。また、異次元の金融緩和によってマネタリーベースは増加しているものの実際に動いているお金であるマネーストックは変化していないことなどから完全に失敗に終わっているという評価となりました。また、異次元の金融緩和と国債購入のために「買いオペ」をマイナス金利でも日銀が実行しているため、あとに引けない状況がアベノミクスによって発生していることもわかりました。

次に、そういった状況でこれからの日本経済についてですが、国債による政府の負債が高まり続け、日銀が国債の直接引き受けのような行動を続けると、為替相場から円の暴落が発生し、さらに国債の利率も上がることから債務不履行の状態かハイパーインフレのような状況になることが予想され、国民の生活は危機的になる恐れがあること。今後の更なる人口減少と少子高齢化が、税の負担者減と社会保障増を引き起こし、これに拍車をかけることがあげられました。

非常に危機的な財政状況に日本があることを説明いただき、政治の役割として財政も国民で支え合うことの大切さを伺いました。

網走の財政状況も国に依存するところが大きく、現状のままではいかないことは明白です。これからの財政政策をしっかりと考えていく必要があると痛感させられる講演となりました。

出張所見

北海道から平和を創る自治体議員の会 総会・研修会

「日本国憲法と改憲問題」

講師：岩本 一郎 北星学園大学

北海道から平和を創る自治体議員の会(平和議連)の総会に併せ、研修会が開催されました。

この度の研修会では、北星学園大学の経済学部経済法学科教授の岩本一郎氏を講師に迎えて、現在安倍政権において総理から発言が繰り返されている「改憲」についての問題点を伺いました。

まず、そもそも改憲が必要である理由が「時代に即していない」「おしつけ憲法だ」などの不透明な理由であり、何がどのように時代に即していないのか、歴史上どうおしつけられ、そのどこが悪くて改憲の必要があるのか、改憲を主張する方々の理屈が欠けていることについて、この状況で改憲議論を求められても応じようがないという法学者としての考えを伺いました。そして、そのような状態で国民投票を行うという考えに対して、マスコミの活用やネットでのキャンペーンで一時的なムーブメントをかきたてて安易に流れてしまう可能性が高いという危険性を訴えられました。

次に、世界各国の改憲の状況について説明し、世界で日本だけが改憲をしていないのはおかしいという議論に対して、各国の憲法の性質やヨーロッパ諸国ではEU加盟による改憲など国際情勢の変化によるものであり、国内的内容や性質的な変化でも改憲は先進国ではないという説明がされました。

そして、現在安倍政権が主張している憲法に自衛隊を明記することに関しては、内容の矛盾点や個別の組織の名称の在り方についてなど説明がされました。

また、緊急事態条項については、憲法に書き込む必要はなく法整備で十分であり、法の議論をすべき。緊急事態条項によって権力の暴走を許すことになり、憲法の存在意義と矛盾するという説明がなされました。

憲法について、総理から定期的に改憲の発言がされるなか、市民からも不安の声が上がっており、これに応えるためにも大変有意義な研修となりました。